

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
日本コンピュータ専門学校	昭和58年10月15日	瓶井 修	〒533-0014 大阪市東淀川区豊新1-21-22 (電話) 06-7506-9053																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人瓶井学園	昭和58年9月26日	瓶井 剛	〒533-0011 大阪市東淀川区大桐2-6-6 (電話) 06-6329-6553																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
工業	工業専門課程	情報処理システム科 Aコース	平成7年1月23日 文部科学大臣告示第7号	-																											
学科の目的	高度情報化社会を根幹から支えるコンピュータシステムの開発エンジニアを育成するために専門的かつ実践的な授業を行い、即戦力として働ける人材を育成することを目的とする。																														
認定年月日	平成26年 3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2	昼間	1920時間	540時間	180時間	2040時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
80人	37人	23人	5人	6人	11人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年4回実施される定期試験の結果と課題、演習、実習成果等を含めたGPA評価を行う。																											
長期休み	■学年始:4月11日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月20日		卒業・進級条件	設定科目の成績評価が60点以上であり、出席時数が総授業時数の3/4以上、各科目の出席時数が総授業時数の2/3以上で進級または、卒業することができる。																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者への連絡し、可能な場合は、三者面談、家庭訪問等を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭に参加(令和元年11月4日 実施) ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) IT業界、その他の業界 ■就職指導内容 担任が面接を行い、希望職種等を聞き、求人サイトや求人票で紹介している。会社説明会等にも参加させ履歴書の書き方、面接の受け方など個々に指導している。 ■卒業生数 16 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 9 人 ■就職率 75 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 56.25 % ■その他 ・進学者数: 1人 (令和 元 年度卒業生に関する 令和2年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>①</td> <td>20人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	①	20人	7人																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
基本情報技術者試験	①	20人	7人																												
中途退学の現状	■中途退学者 8名 平成31年4月1日時点において、在学者40名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者32名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振、病気、家庭の事情 ■中退防止・中退者支援のための取組 欠席には、本人と連絡を取り、欠席理由を確認し、欠席が続く場合は、面接等を実施し、学習意識向上させるために目標設定などの指導をしている。		■中退率 20%																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 日本コンピュータ専門学校 奨学金制度につきましては、2020年度 学生募集要項の「11. 奨学金制度」(P7)を参照してください。 掲載ホームページURL: http://ncp.ac.jp/pdf/detail.pdf ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	http://ncp.ac.jp/course/specialist/specialist.html																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学(高等専門学校)及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」としては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体と連携し、最新の知識・技術を反映し、企業ニーズに合う教育カリキュラムや教育内容を設定する。また、教育内容に沿った教材等を開発し授業で実施する。年度内に数回の学生アンケートを実施し、教育カリキュラムや教育内容、教材、教育方法等に問題があるようであれば、職員会議や教育課程編成委員会で検討して、具体的な改善策を検討

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学生の実践的な教育に関する事項を審議・処理する組織として位置付けし、学生アンケート等を報告し、教育課程編成委員会の意見は、教務会議とカリキュラム編成委員会で審議されたのち校長の許可を経て決定する。実施後も業界ニーズを調査し、講義内容や実習内容の充実を図っている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
三木 喬史	ウェブレイス	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	③
小幡 忠信	一般社団法人 Rubyビジネス推進協議会	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	①
池永 靖	日本気象株式会社 教育事業チーム ティーム	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	③
久下 直彦	株式会社アイ・ピー・エス	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	③
西川 貴史	株式会社セブン	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	③
吉村 昌晃	合同会社 翔エンターテイメント	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	③
稲泉 綾二	大阪国際大学	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	②
増南 正	有限会社 スタジオ・マックス	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	③
井端 賢次	テクノメック合資会社	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	③
瓶井 修	日本コンピュータ専門学校 学校長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和元年10月 5日 13:30～14:30

第2回 令和2年 3月21日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・学生の授業評価アンケートを実施し、学生から出た意見を報告し、各教員にフィードバックを行い、改善をお願いした。
- ・卒業研究でレベルの高い学生への対応でレベルごとにテーマ設定をして実施してはどうかの意見に対して研究テーマの紹介・設定を行って実施している。
- ・卒業研究等の作品の活用方法はないのか、優秀学生のアピール方法はないのかの意見に対して、ホームページ、YouTube、FaceBook、スタディサプリ等に学生作品を公表している。
- ・AIプログラミングにおいて、AIシステムを実現するために統計学を導入し、R言語で統計を分析する授業を行ってどうかの意見に対して現在実施している。
- ・Pythonの授業が必要である旨を委員会で議論を行った結果、委員の承認を得て、Rubyの授業をやめ令和2年度からPythonの授業を実施している

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携し、実習・演習等で実施する内容を打ち合わせし、学校では学べない企業ニーズに即した実習・演習等を行うことができ、より実践的な技術力を養うことを基本方針とする。また、就職活動で実習・演習等を受けたことで優位に働くことを期待する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業科目担当教員と実習担当責任者が実習内容を実施前に打ち合わせを行い決定する。

実習期間中は、科目担当教員が学生の学修状況について直接確認する。

実習終了時には、学生アンケートを実施し、次回の実習内容を事前打ち合わせを行うときの参考資料とする。

実習終了後は、実習担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ、科目担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	学校では学べないビジネスマナーや実践的な業務に従事し、社会人としての実践力を身に着けます。	株式会社アップスタート 一般社団法人 Rubyビジネス推進協議会 株式会社ニューウェイブ・ソフト
オブジェクトプログラミングⅠ	企業ニーズに合った内容の技術習得を演習形式で行います。資格取得対策なども演習形式で行います。	株式会社アップスタート 株式会社ウィズツーワン 一般社団法人 Rubyビジネス推進協議会 株式会社ニューウェイブ・ソフト
演習Ⅰ	業務システムについて学んだ知識を利用して学内・企業において実践的に実習を行う。	株式会社ニューウェイブ・ソフト

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 日本コンピュータ専門学校教職員研修規程に基づき教育の質向上のために必要な知識・技術・技能などについて該当する担当教員に研修を受けさせ教授力向上と学生指導等の指導力向上に関する研修に参加させ指導力向上を図ることを基本方針とする。研修をうけることで学生の学習意欲の向上を図り、退学者、欠席者をなくし、就職へと導く。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「企業が行うべきデータベースセキュリティ」(連携企業等:オラクル(株))
 期間:令和元年 8月30日(金) 対象:専門学校教員
 内容:データベースセキュリティに対策に求められるガイドライン、明示的同意取得とデータセキュリティ対策について

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「外国人留学生採用企業交流会」(連携企業等:一般社団法人 大阪府専修学校専門学校連合会)
 期間:令和元年10月30日(水) 対象:留学生指導担当教員
 内容:企業と専門学校教職員、専門学校在籍の外国人留学生による交流会において企業が求める留学生の人材像、実績の紹介

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「 () 」(連携企業等: ())
 期間:令和〇年〇月〇日() 対象:
 内容:

② 指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「Withコロナ時代に求められる教育・指導体制とは」(連携企業等:(株)進研アド)
 期間:令和2年 7月30日(木) 対象:専門学校教員
 内容:専門学校生の教育に与えた影響、学校の指針に基づく指導方法、コロナに負けない指導体制構築などについて

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、自己点検・自己評価を実施し、学校関係者評価委員会において、報告し改善を議論し、改善に努めることを基本方針にしている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人物像の設定、専門分野の特性の明確化 ・職業教育の特色の明確化 ・社会経済のニーズ等を踏まえた将来構想の設定 ・理念・目標・特色等の学生・保護者への周知 ・業界ニーズに向けた教育目標・育成人物像の設定
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿った運営方針の策定 ・運営方針に沿った事業計画の策定 ・運営組織・意思決定機能の明確化・機能状況 ・人事・給与規定の整備 ・教務・財務等の組織整備等意思決定システムの整備 ・業界や・地域社会等に対するコンプライアンス体制の整備 ・教育活動等に関する情報公開 ・情報システム化等による業務効率化
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定 ・学科目標に対応した教育到達レベル・学習時間確保の明確化 ・学科等カリキュラムの編成状況 ・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラム開発・工夫 ・関連分野の企業・団体等との連携によるカリキュラム作成・見直し ・実践的職業教育の体系的な位置づけ ・授業評価の実施・評価体制 ・職業教育に対する外部関係者からの評価体制 ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準の明確化 ・資格取得等の指導体制、カリキュラムの体系的な位置づけ ・人物育成目標達成に向けた教員の確保 ・業界との連携に優れた教員確保等のマネジメント ・先端的知識・技能修得のための研修、指導力向上への取組 ・職員の能力開発のための研修の実施
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率向上への取組 ・資格取得率向上への取組 ・退学率低減への取組 ・卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握 ・卒業後のキャリア形成の把握と教育活動改善への活用
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制への整備 ・学生相談に関する体制への整備 ・学生に対する経済的な支援体制への整備 ・学生の健康管理を担う組織体制 ・課外活動に対する支援体制の整備 ・学生の生活環境への支援 ・保護者との適切な連携 ・卒業生への支援体制 ・社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備 ・高校等との連携によるキャリア教育・職業教育への取組
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の整備状況 ・学内外の実習施設・インターンシップ等の教育体制の整備 ・防災に対する整備
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は適正な実施 ・学生募集活動での教育成果の報知 ・学納金の妥当性
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な財務基盤の安定性 ・予算・収支計画の有効性・妥当性 ・財務の会計監査の適正な実施 ・財務情報公開の体制整備

(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営 ・個人情報保護の対策 ・自己評価の実施と問題点の改善 ・自己評価結果の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源・施設を活用した社会貢献・地域貢献 ・学生ボランティア活動への奨励・支援 ・地域に対する公開講座・教育訓練受託等の実施
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣についての戦略

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

コミュニケーション能力の低下に関する意見について、コミュニケーション能力やプレゼンテーション技法、学生とのコミュニケーションを通じて向上をさせている。

仕事の楽しさや尊さを伝えて、つまらない授業にならないようにしてはの意見について、授業で説明している。

また、連携企業の卒業生を招いて講義を実施している。

個々の学習(習得)の仕方について、(目で見て、耳で聞いて、書いて覚えるなど)得意な意見について、課題等を通して個々の学習状況を確認している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
建山 和徳	ウェブレイス	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	企業等委員
吉村 昌晃	合同会社 翔エンターテイメント	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	企業等委員
増南 正	有限会社 スタジオ・マックス	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	企業等委員
蔵敷 重壽		令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年間)	元高等学校校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://ncp.ac.jp/guideline.html>

公表時期: 令和2年8月5日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者評価委員会の委員には、委員会に置いて自己点検・自己評価を資料として配布し、意見と検討を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数 ・カリキュラム(科目編成・授業時数、時間割、授業方法及び内容、年間授業計画) ・進級・卒業の要件等(成績評価基準、卒業・修了の認定基準等) ・取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・資格取得、検定試験合格等の実績 ・卒業者数、卒業後の進路(就職者数・主な就職先、進学者数・主な進路)
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員数(職名別) ・教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取組状況 ・実習・実技等の取組状況 ・就職支援等への取組支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学生納付金の取扱(金額、納入時期等)
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価・学校関係者評価の結果

(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ、派遣状況
(11)その他	・学則等

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://ncp.ac.jp/guideline.html>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理システム科Aコース) 令和2年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			数学	情報処理技術者にとって必要な線形代数、確率・統計の基礎事項について、高校までの数学を前提とせず、平易かつ具体的な展開で進めていきます。また十分な演習を行い、IT技術への応用力を高めることを目的とします。	1通	60	2	○			○			○		
○			現代社会論	現代社会のコンピュータシステム事情を学び、コンピュータ上で扱うデータやプログラム等の著作権、意匠権、特許法について学習します。	1通	60	2	○			○				○	
○			英語	コンピュータに関する英文の読解力に必要な基礎学力を学習します。この目標を達成するために、英語検定試験問題による演習も行います。	1通	60	2	○			○				○	
○			コンピュータ概論	コンピュータの各部分の名称とその役割、そしてそれらの中で何がどう動いているのか、その全体像を把握するために、ハード・ソフトの両面からコンピュータを詳しく学んでいきます。また、国家資格の基本情報技術者試験の合格を目指します。	1通	60	2	○			○				○	
		○	情報セキュリティ	情報セキュリティマネジメント試験(国)の資格対策授業を行い、セキュリティの知識を学習します。	1通	60	2	○	○		○				○	
		○	情報システム概論	基本情報技術者試験(国)の受験対策を中心に学習します。	1通	60	2	○	○		○				○	
○			プレゼンテーション技法	報告、提案の説得技術を学習し、発表の構成の仕方、発表方法について学習します。またプレゼンテーションツール操作の実習も行います。また、就職・編入(進学)のための学習もします。	1通	60	2		○		○				○	
○			コミュニケーション技法	社会人として、会議や打ち合わせ、プレゼンテーションにおける話し方や会話の仕方を学習します。実際にディベートや集団面接、討論会などを行います。	2通	60	2		○		○				○	
○			アルゴリズムとデータ構造	アルゴリズムはすべてのプログラムの基礎となるものです。再利用性の高いプログラムを作るため、さらにはコンピュータの思考を理解するために必要な知識を習得します。早く合理的に作業ができる手順を考える思考方法を学習します。また、国家資格の基本情報技術者試験の合格を目指します。	1通	60	2	○			○				○	
合計					9科目		540単位時間(18単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
試験等に合格し、本校所定の課程を修了した者	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理システム科Aコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アプリケーション構築概論	コンピュータシステムやアプリケーションの開発手法について概観する。ビジネスの場で使用されている IT 戦略とマネジメントについても学習する。	1通	60	2	○			○	○			
○			C言語 I	システム開発用の基本的な言語であるC言語の基本を学習する。実際にプログラミングしてみても実機での確認を行うと共に、開発の基礎を学ぶ。	1通	60	2	○			○	○			
○			オブジェクトプログラミング I / II	オブジェクト指向プログラミングについて企業ニーズに合わせた言語を使用して 基礎から実践的にプログラミングをしていく。現在は、言語にPythonを使っている。	1 2通	120	4	○			○	○	○	○	
○			卒業研究	個人または、グループで企業ニーズに合ったシステム開発や作品制作を行う。実際に仕様書から設計書を書いて、企業の現場を意識した開発を行っていく。	2通	180	6	○			○	○	○		
		○	物理	力学、力と運動、回転運動と剛体、波動、熱電流と磁場、振動する電磁場などの気象予報士の資格に必要な知識を学習します。	1通	60	2	○			○		○		
		○	アセンブラ言語	基本情報技術者試験の午後に出題される言語のひとつであるアセンブラについて学習します。	1前	30	1	○			○	○	○		
○			C言語 II	C言語 I で学んだことを基礎にして C言語の応用について学習する。プログラミングでは開発の実践力を身に着けることを目指す。	2通	60	2	○			○	○		○	
○			Javaプログラミング I / II	Java の基礎から開発手法を学び、JavaApplet、Java サブレットなどのアプリケーションの開発手法を学びます。2年次では、スマートフォン (Android) の学習もします。	1 2通	120	4	○			○	○		○	
○			Javascript	Web ページ内の表示をアニメーションで切り替えたり、ボタンの押下に合わせて表示のオン・オフを制御したりといった「ページ内での動的な表示切り替え」を行いたいような際に使用する技術を学びます。また、Ajax や Jquery の学習もします。	2通	60	2	○			○	○		○	
合計					9科目		750単位時間(25単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
試験等に合格し、本校所定の課程を修了した者	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理システム科Aコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Webシステム開発Ⅰ／Ⅱ	Apache、MySQL、PHP を利用してサーバアプリケーションの開発手法を学習し、実践的なサーバアプリケーションの開発手法を学習します。	1 2 通	180	6	○		○	○		○		
	○		UNIXシステム(Linux)	Linux について基礎的な知識と OS のインストールから環境設定、セキュリティ設定、ユーザ設定、LAN への接続などをコマンドラインで操作ができるようにし、Linux 技術者認定試験LPIC レベル1の資格取得を目指します。	2 通	60	2	○		○	○				○
	○		Webサイト構築	Web サイトそして必要な機能(ホームページサービス・メールサービス・FTP・Telnet サービスなど)を構築するための技術について学習します。また、実際にWebサイトを構築します。	2 通	60	2	○		○	○				○
	○		Webプログラミング	JavaScript とは Web ページを記述する言語の一つです。そのJavaScript やCSS 技術などを含めたホームページの総合的なデザイン、プログラミングについて学習します。ウェブサイトさまざまな機能や動作や加え、為替や株価といった時刻によって変化するデータや、アンケートやユーザ登録ページといった 動きのあるページの作成をするものです。	2 通	60	2	○		○	○				○
	○		人工知能(AI)概論	AIの基本的な知識・技術を学び、機械学習やディープラーニングについて仕組みを学びPythonを使って基本的なプログラミングについて学びます。	1 通	60	2	○		○	○				○
		○	AIアルゴリズムⅠ／Ⅱ	AIシステムを実現させるためにその考え方について学び、Pythonを使って機械学習やディープラーニングについてプログラミングの基礎を学びます。2年次は、その知識を利用して具体的にシステム化していきます。	1 2 通	120	4	○		○	○				○
	○		AIプログラミングⅠ／Ⅱ	AIアルゴリズムをもとにAIシステムの音声認証や画像認証などのシステムを構築して、精度の向上などの処理について学びプログラミングしていきます。	1 2 通	180	6	○		○	○				○
		○	IoTデバイス制作実習Ⅰ／Ⅱ	IoTで使用されるデバイス(LED、DCモータ、サーボモータ、温度・湿度、A/Dコンバータなど)のデバイスを制作し、Pythonを使ってプログラミングしていきます。	1 2 通	120	4	○		○	○				○
	○		IoTデバイスプログラミングⅠ／Ⅱ	各種IoTデバイスをRaspberry Piに接続し、プログラミングについて学習します。また、webiopiシステムを使って遠隔でIoTデバイスを操作するプログラミングについても学習します。	1 2 通	120	4	○		○	○				○
合計					9科目	960単位時間(32単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
試験等に合格し、本校所定の課程を修了した者	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理システム科Aコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
		○	IoT戦略と マネジメント	IOTの現状を学習し、今後の発展に伴う戦略を学んでいきます。また、どのようにIoT技術が経営・管理に結びついていくかを学びます。	1 通	60	2	○			○	○			
		○	IoT産業シ ステムと標準 化	IOT産業システムにはどのようなものがあるかを学び、標準化の必要性について学びます。	1 通	60	2	○			○	○			
	○		iPhone プログラミング I/II	iPhoneのアプリの開発手法を学び、実際にスマホアプリの作り方について学びます。	1 2 通	240	8	○		○	○			○	
	○		Androi dプログラミ ングI/II	Androidのアプリの開発手法を学び、実際にスマホアプリの作り方について学びます。	1 2 通	240	8	○		○	○			○	
		○	スマホアプリ 開発I/II	iPhoneまたは、Androidのアプリを企画して実際に制作していきます。	1 2 通	240	8	○		○	○			○	
		○	スマホデバイ スプログラミ ング	スマートフォンのデバイスプログラミングの手法を学び、実際に制作します。	2 通	60	2	○		○	○			○	
		○	モバイルプロ グラミングI /II	iPhoneやAndroid以外のタブレットにも対応できるアプリの制作手法を学び実際に制作していきます。	1 2 通	240	4	○		○	○			○	
	○		演習I/II	IT業界は、日進月歩であるために科目にない先端技術について必要な知識・技術を学び、実際にプログラミングを制作していきます。	1 2 通	240	8	○		○	○	○		○	
		○	課題制作I/ II	IT業界は、日進月歩であるために科目にない先端技術について必要な知識・技術を学び、課題を与えて実践的にプログラミングしていきます。	1 2 通	240	8	○		○	○			○	
合計					9科目	1620単位時間(50単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
試験等に合格し、本校所定の課程を修了した者	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理システム科Aコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	クラウドシステム開発Ⅰ／Ⅱ	Windowsまたは、LinuxOS上でWebサーバやメールサーバ、データベース、ファイルサーバ、アプリケーションサーバ、認証サーバなどを構築しシステムプログラミングしていきます。	1 2通	180	6	○		○	○			○	
		○	クラウドアプリ開発Ⅰ／Ⅱ	クラウドシステム上で動作する各種アプリケーションの開発手法を学び、実際にアプリケーション制作を行います。	1 2通	180	6	○		○	○			○	
		○	Webアプリ制作Ⅰ／Ⅱ	Web上で動作するネットショップやSNSなどのサービスアプリの制作方法を学び実際に制作していきます。	1 2通	180	6	○		○	○			○	
	○		ネットワークシステムⅠ／Ⅱ (CCNA)	サーバ、ネットワーク機器の設定から回線・VPN構築といったインフラまわりまで、止まることのない快適なネットワーク環境を実現するための技術を基本から学ぶ。	1 2通	240	8	○		○	○			○	
	○		データベースⅠ／Ⅱ (Oracle)	大量のデータを管理するのに必須のデータベースについて利用者として必要な概念と、操作方法を学習し、開発者としての他のプログラムと連携の基礎知識を学ぶ。	1 2通	120	4	○		○	○			○	
	○		ホームページ制作	HTML5/CSS2/CSS3 を使ってホームページ制作の基礎を学習します。ホームページの仕組みを理解させるためにプログラミング中心で行います。	1通	60	2	○		○	○			○	
		○	電子工学／電気回路	有線電気通信設備の端末設備に利用される技術を基礎から学び、通信設備と接続するための知識を習得する。	1通	120	4	○			○				○
		○	有線電気通信工学	有線電気通信設備の端末設備に利用される技術を基礎から学び、通信設備と接続するための知識を習得する。	1前	30	1	○			○				○
		○	データ通信工学／デジタル回路	データを伝送するための知識を基礎から学び、デジタル伝送に必要な回路構成等を学ぶ。	1通	60	2	○			○				○
合計				9科目	1170単位時間(39単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
試験等に合格し、本校所定の課程を修了した者	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報処理システム科Aコース) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			インターンシップ	学校では学べないビジネスマナーや実践的な業務に従事し、社会人としての実践力を身に着けます。	2通	120	4			○	○	○			○
合計				1科目											120単位時間(4単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
試験等に合格し、本校所定の課程を修了した者	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。